

大国保育園

[浪速区]



「栽培を通しての感動体験」

大国保育園では、栽培活動（花、野菜）を盛んに取り入れています。それは、心の成長につながる保育と考え大切にしています。2歳児はラディッシュを子どもたちと種から育てました。子どもは小さな種を手に取り、慎重にポットに撒きます。早くできないかなと期待をもって水をあげながら「早く大きくなれ」と語りかけ、生長を楽しみにしていました。「あっ、大根の赤ちゃんがあった、見て」と発見したことを、自分なりの言葉で伝える姿や、「かわいいね」と自分が育てたからこそ自然と出た言葉がありました。

いざ、収穫すると「やったあ」と喜び「これなあに？」と根っこに疑問が出ました。栽培を通して感動体験、生長を自分のように喜び合う姿がありました。それが一番の自慢です。

幼保連携型認定こども園 大国保育園 保育士 いべ

愛染橋保育園

[浪速区]



「日常の保育から 身につく仲間意識」

ひまわり組（4歳児）の子どもたちは「もりの へなそら」という童話に出会い、どんどんお話の世界に入り込んでいきました。「遠足で、へなそらの森探しに出発！」と子どもたちのワクワクが広がります。もちろんへなそらは運動会にも登場しました。そして”へなそらの愛”がどんどん大きくなり、迎えた発表会。へなそらが元気に寒い冬を過ごすためにはどうしたらいいかを子どもたちと一緒に考え、手作りの帽子・マフラー・どんぐりハウスをへなそらにプレゼントをしました。クラスのみんなで共有できる”へなそら大好きの気持ち”は、集団の中での仲間意識にも繋がっています。

子どもたちが夢中になっているものを日常の保育に取り入れ、一緒に楽しめる保育が、わたしのちょっとした自慢です。

幼保連携型認定こども園 愛染橋保育園 保育士 ぶんどう

わかくさ保育園

[西成区]



「一期一会からのつながり」

わかくさ保育園では、公園ひろばや子育てサロン、乳幼児健診の訪問など、地域の親子と関わる活動を行っています。

「公園ひろば」は地域の公園で、発達や年齢、またその時期に合ったあそびの提供をしています。初対面であっても育児の困りごと、悩みには共通点が多く、保護者同士で共感し合ったり、アドバイスし合ったりと、いつの間にか温かい雰囲気となり、最後は「じゃあまた」と、次回の公園ひろばで会うことを楽しみにされる姿が見られます。

「先生見て、わかくさ保育園って安心できる場所と感じる。今度あそびにいってみたい」との声をいただくこともあります。実際にその後、足を運んでくださる親子もいます。

出会いからつながりが深まっていくことがとても嬉しいと感じています。保育園に通っていない親子とも関わることのできるこの活動は、わかくさ保育園の自慢の保育だと思います。

わかくさ保育園 あおぞら保育(公園広場など)担当 ながい

わたしたちの保育園自慢

2024年度“つつ”にこだわりました



「食からはじまる輪！」

食べ慣れないことでの経験不足や食の好み、宗教や国籍、こだわりなど様々な理由で食の難しさを抱えている園児は多いです。無理せず少しずつ園の食に慣れてくれるよう、食べられない園児にはその負担を減らす食事を提供したり、家での様子を聴いて好きなものを取り入れたりしています。

最近では全園児の2割程度を占める宗教食への対応も大豆ミートや魚・えびなどで代替えし、工夫して作っています。

保育や家庭との連携、本人たちの成長もあって、ほとんどの園児が食べられるようになって卒園しているのがちょっとした自慢です。

幼保連携型認定こども園 愛染園南港東保育園 管理栄養士 ほそい

「ポジティブな言葉のシャワーを！」

子育てに関する話の中で「ことばづかい」が悪くなってきたという相談をいただくことがあります。

乳幼児の場合は、大抵どこからか覚えてきた言葉を善悪がわからず、そのまま使っていることが多いので、頭ごなしに正しいことばづかいに訂正してあげてくださいとお伝えします。

どこからかというのは過ごす時間の長い環境から一番影響を受けます。乳幼児では家庭や保育園になるでしょうか。

この、言葉を習得していく過程でこどもたちにはポジティブな言葉をシャワーのように浴びてほしいと願います。

すこし、練習が必要ですが「うるさい」といわずに「静かにしてね」「走ってはダメ」→「歩いてね」というような感じです。

また、「雨降り嫌だな」と心で思っても、「雨降ったら、お花が喜ぶね」など言い換えてみてください。普段からポジティブな言葉を浴びているお子さんはポジティブな言葉の使い方が自然に身につくので、お友だちとのコミュニケーションも良好です。



保育士の知恵袋